

MICEプロモーションプラン



もくじ

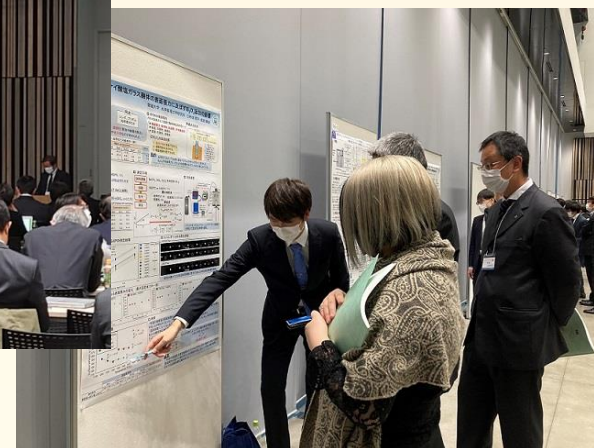
1. 方針の位置付けと背景
2. 八王子市の現状と社会の動向
3. これまでの活動の振り返り
4. 取り組むべき課題
5. 基本的な考え方と目指す姿
6. 取組の方向性と各事業
 - (1) 効果的な誘致活動の強化
└ 重点ターゲットの設定
 - (2) 開催支援の充実
 - (3) MICE都市としての基盤整備
7. 推進の体制とステップ

Convention

- 第63回ガラス及びフォトンクス材料討論会
(The 63rd Symposium on Glasses and Photonic Materials)
共催特別企画: 第18回ガラス技術シンポジウム(GIC18)



シンポジウム



ポスターセッション

日程 令和4年(2022年)12月6日、7日
場所 東京たま未来メッセ
主催 日本セラミックス協会 ガラス部会
共催 ガラス産業連合会(GIC) 協賛 日本化学会、応用物理学会
開催担当事務局
東京都立大学 大学院都市環境科学研究科 環境応用化学域 梶原浩一教授

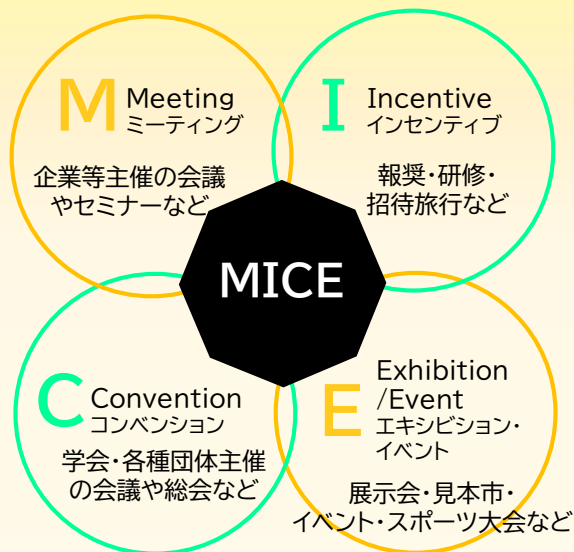
日本セラミックス協会 ガラス部会は、ガラスおよびその関連材料に携わる研究者・技術者による組織であり、ガラスの基礎研究から製品開発、製造といった幅広い領域をカバーします。

年一回開催される討論会においては研究発表やガラス産業連合会によるシンポジウム 開催など大学～産業～国研をまたぐ親睦・情報交換の場となっています。

今回は、2回のオンライン開催を経て、3年ぶりの現地開催となりました。

参加者数 168名

MICE?



MICEとは？

MICE（マイス）とは、企業等主催の会議やセミナー（**M**eeting）、企業等の行う報奨・研修・招待旅行（**I**ncentive Travel）、学会や各種団体等が行う会議や総会（**C**onvention）、展示会・見本市、イベント（**E**xhibition/**E**vent）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称です。

MICEは、企業・産業活動や研究・学会活動等と関連している場合が多いため、一般的な観光に関連しながらも、ビジネスとしての性格が強いです。このため、観光振興という文脈でのみ捉えるのではなく、MICEについて、市内外から「多くの人が集まる」という直接的な効果はもちろん、人の集積や交流から派生する付加価値や大局的な意義があります。

MICE開催の意義・効果

● 高い経済効果

MICE開催を通じた主催者・参加者等の消費支出は、一般的な観光よりも開催地域を中心に大きな経済波及効果を生み出します。

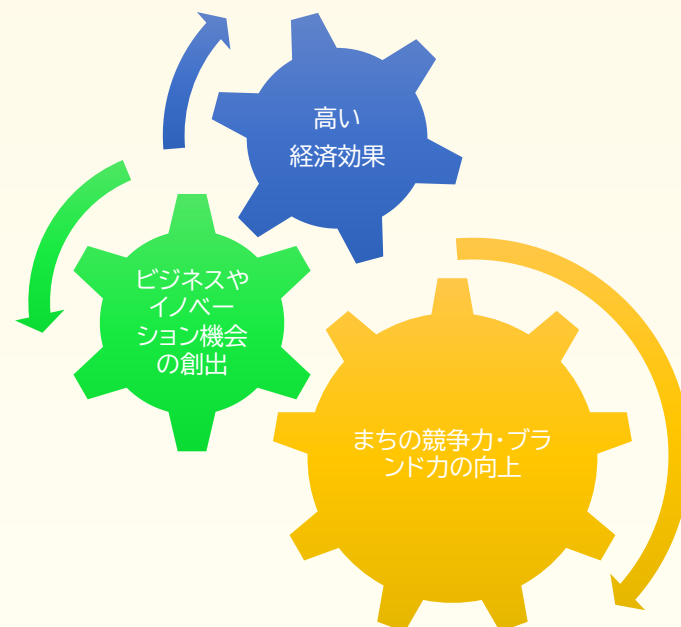
● ビジネスやイノベーション機会の創出

MICEが開催されると、ビジネスや各種研究分野の多くの参加者が集まります。国内外の参加者が八王子を訪れ、八王子エリア内の参加者との交流が生まれることにより、人的ネットワークの形成や知識・情報の交換に大きな効果をもたらすことが期待されます。それらを通じて、新たなビジネス機会や科学技術の発展、イノベーションの創出への道が拓かれます。

● まちの競争力・ブランド力の向上

MICEを通じ人や情報の交流・流通、ネットワーク構築が期待されることから、「国際会議の開催」は都市競争力の重要な評価項目の一つとなっています。

また、多くの人が集まるMICEの開催は、都市の知名度やイメージの向上をもたらし、ブランド力向上につながります。（レガシー効果）



1. 方針の位置付けと背景

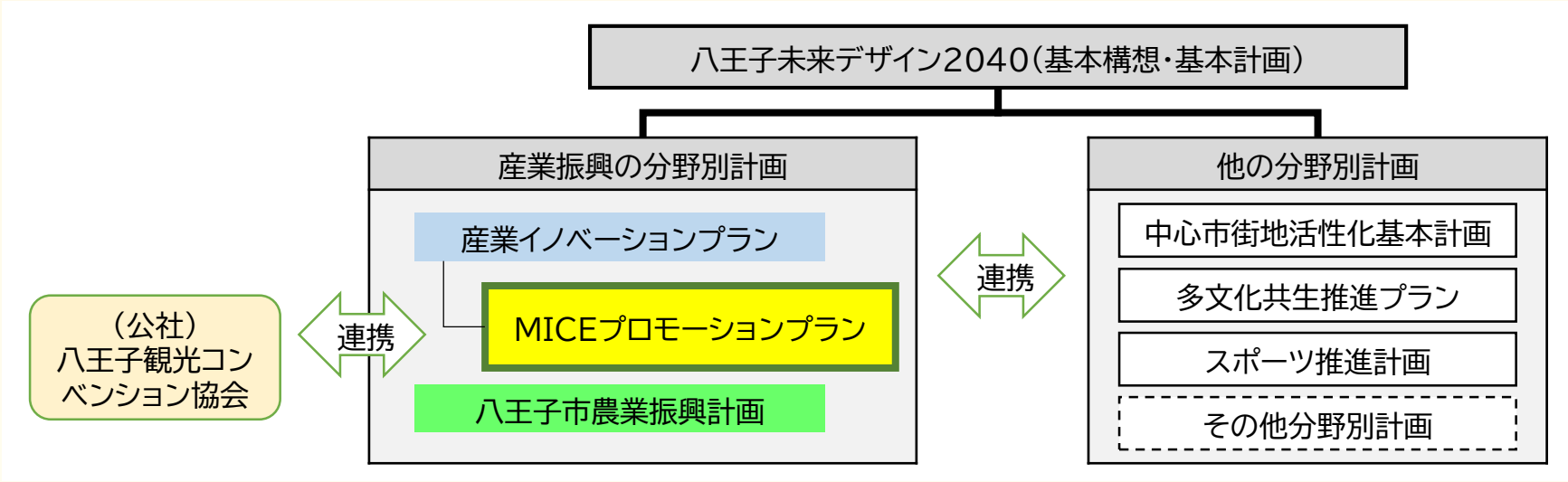
● 目的

MICEの開催は地域に様々な効果をもたらすことから、国内外で誘致競争が激化しています。八王子エリアでは、平成26年度(2014年度)から八王子MICE都市推進センター準備室(商工会議所内)が調査研究を行い、平成29年度(2017年度)に(公社)八王子観光コンベンション協会を設立し多摩エリア初のコンベンションビューローとして活動を開始しました。令和3年度(2021年度)からは市も体制を強化し、車の両輪となり事業を行っています。

MICE誘致や開催支援は、地域と行政が相互に連携し、ALL八王子で継続的に取り組む必要があります。市として本事業をさらに推進するため、「八王子未来デザイン2040(基本構想・基本計画)」・「産業イノベーションプラン」と理念を共有し、八王子エリアにおけるMICE推進の活動方針を策定します。本プランの理念を関係者と共有し、本事業の更なる推進を図ります。

● 本方針と関連計画の位置付け

本方針は「八王子未来デザイン2040(基本構想・基本計画)」を最上位計画とした、産業振興の分野別計画である「産業イノベーションプラン」に基づく方針です。MICE推進の中核的存在である(公社)八王子観光コンベンション協会と共に、中心市街地活性化基本計画や多文化共生推進プラン、スポーツ推進計画をはじめとする他の分野別計画等と連携を図りながら事業を推進していきます。



● 期間

上位計画である「産業イノベーションプラン」と同じ、令和5年度(2023年度)から令和12年度(2030年度)までの8年間を期間とします。

1. 方針の位置付けと背景

● MICE推進の背景

【国の動向】

我が国では、平成25年(2013年)6月に閣議決定された「日本再興戦略-JAPAN is BACK-」において「2030年にはアジアNo.1の国際会議開催国としての不動の地位を築く」という目標が掲げられ、多くの人や優れた知見、投資を日本に呼び込む重要なツールとしてMICEが位置付けられました。

また、平成30年(2018年)6月に観光立国推進閣僚会議で決定された「観光ビジョン実現プログラム2018」(観光ビジョンの実現に向けたアクション・プログラム2018)においても観光立国実現に向けた主要な柱の一つとしてMICEが位置付けられており、これらの戦略に基づく具体的なアクションを通じて、我が国のMICEの一層の発展を目指しています。

【東京都の動向】

東京都は平成25年(2013年)に「グローバルMICE都市」に選定され、平成27年(2015年)7月には「東京都MICE誘致戦略～揺るぎないプレゼンスの確立を目指して～」を策定し「世界トップ3に入る年間330件の国際会議の開催」を目指すこととしました。(公財)東京観光財団と連携し、国際会議や報奨旅行等の誘致・開催支援、MICE関連事業者の人材育成、MICE施設やMICE拠点等の受け入れ環境整備等を進めています。

令和4年(2022年)2月の「PRIME 観光都市・東京 東京都観光産業振興実行プラン～観光産業の復活と持続的な成長に向けて～」では、観光産業の復活と「サステナブル・リカバリー」の実現に向け、「観光産業の活性化」、「社会変化等に対応した『新しい観光』の浸透」、「持続可能な観光の推進」の3つの戦略を設定し、MICEにおいても3つの戦略を踏まえた「MICE誘致の推進」を掲げています。

令和5年(2023年)1月には「東京都MICE誘致戦略2023」を策定し、「グローバル対応の集中的な強化による誘致推進」「多様なポテンシャルを活かしたMICE開催効果の最大化」「デジタル技術の活用促進によるMICEの付加価値向上」「多様な主体や地域との連携推進」「環境に配慮した社会づくりに資するMICEの推進」の5つの戦略を掲げています。

一方、令和4年(2022年)10月に明神町に東京たま未来メッセ(東京都立多摩産業交流センター)が開業しました。多摩エリア最大級の約2,400㎡の展示室と約50㎡～200㎡の大小7つの会議室を有し、国際会議をはじめ大規模なイベントの開催も可能となりました。

多摩ビジネスイベント重点支援エリア

東京都では、多摩地域においてMICE関連施設が一定程度集まるエリアで、受入環境整備に取り組む団体等を多摩ビジネスイベント重点支援エリアとして指定し、重点的に支援しています。

- ・支援期間 8か年
- ・支援内容 提案事業に対する支援、人材育成に関する支援、(公財)東京観光財団による助言等

令和5年(2023年)3月現在、都内には「東京ビジネスイベント先進エリア」「多摩ビジネスイベント重点支援エリア」合わせて9か所があります。

今後MICE事業を推進していくためには、各エリアとの連携が重要です。



2. 八王子市の現状と社会の動向

● 八王子市の資源・魅力

本市は優れた地域資源・観光資源に恵まれており、これらは同時にMICE開催都市としての魅力でもあります。

MICE施設	ユニークベニュー	交通の要衝	宿泊施設
中小規模のMICE施設が市内各所に所在 ・ 東京たま未来メッセ(東京都立多摩産業交流センター) ・ 学園都市センター ・ エスフォルタアリーナ 等	MICE会場として利用できる特別な会場 ・ 歴史的建造物 ・ 文化施設 ・ 公的空間 等	主要エリアからのアクセスの良さ ・ 鉄道: JR中央線・横浜線・八高線、京王線、多摩都市モノレール ・ 道路: 中央自動車道、圏央道、国道16号・20号	中心市街地にはビジネス利用が可能なホテルが一定数あり、一部ではコンベンションホールを併設している。また、高尾方面には特別な体験を提供する宿泊施設もある。
豊かな自然	日本遺産	先端技術企業	学園都市
都内でありながら、自然を感じられる心地よい環境 ・ ミシュラン三ツ星の高尾山 ・ 浅川をはじめとする清流 ・ 高月の田園風景 等	令和2年(2020年)6月、都内唯一の日本遺産に認定 「霊気満山 高尾山 ～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～」を構成する文化財として、高尾山を中心とした29の文化財	大手企業の開発拠点に加え、精密機械・電子機器・IT産業などの先端技術産業が集積	約10万人の学生が学んでいる全国でも有数の規模をもつ学園都市。大学コンソーシアム八王子には25大学等が加盟

● 社会情勢の変化

社会情勢は目まぐるしく変化しています。主催者や地域のニーズ・社会の変化を的確に捉え、必要な対応を行うことが重要です。

安全・安心な環境の提供 新型コロナウイルスの感染拡大により、安全・安心な開催環境が求められます。また、MICEは多くの人が集まるため、会場や周辺地域での混雑対策も必要です。	SDGsへの貢献 全世界が国連で全会一致で採択されたSDGsに取り組んでいます。八王子固有の文化・環境はSDGsと共通する要素を持っており、こうした魅力と新たな取組の一体的な発信が必要です。	DXの導入 新型コロナウイルスの感染拡大を機にハイブリッド開催が広まり、MICE開催におけるDXの導入が進んできました。今後は、事例分析・市場分析等マーケティングへのDX導入が必要です。
リニア中央新幹線の開業 国の構想では2027年に名古屋一品川間が開業します。近隣では神奈川県駅(仮称)が設置されることとなっており、八王子へも多くの人流が見込まれます。	大規模国際イベント 「G7サミット」「TICAD9」「大阪・関西万博」など大規模な国際イベントが日本で開催されます。国内外から多くの集客が見込まれ、日本への注目が高まっています。	

東京たま未来メッセ(東京都立多摩産業交流センター)

令和4年(2022年)10月14日、展示会やイベント、会議等に利用可能な多摩エリア最大級の産業交流拠点が開業しました。

東京たま未来メッセは京王八王子駅から徒歩約2分、JR八王子駅から徒歩約5分の場所に位置し、「多摩地域の持つ産業集積の強みを生かし、広域的な産業交流の中核機能を担うことにより、もって東京都における産業の振興を図る」ことを目的とした、約2,400㎡の展示室と、約50㎡~200㎡の7つの会議室を備える施設です。展示室は4分割利用が可能で、天井高は約10m、耐荷重は約4トンで車両や工作機械といった大型展示にも対応可能です。

開業当初から展示会や学会、シンポジウム、イベントが多数開催され、MICE推進の中心的な役割を担うことが期待されています。

<開業当初の主なイベント>

令和4年(2022年)10月15~16日	第19回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム
10月29~30日	第8回八王子フードフェスティバル
11月11~12日	八王子ものづくりEXPO 2022
令和5年(2023年)2月13日	東京都MICEシンポジウム2023

Exhibition

●八王子ものづくりEXPO 2022

日程 令和4年(2022年)11月11日、12日
場所 東京たま未来メッセ
主催 八王子ものづくり系イベント実行委員会、八王子市

来場者数 4,818名
出展者数 69社/校/団体(77小間、うち48小間は市内事業者等)
特別企画出展者 7社/校/団体



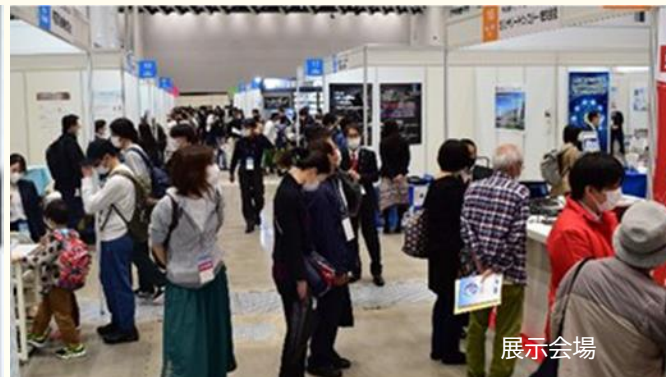
特別企画



特別企画



出展者交流会



展示会場

先端技術分野・社会課題解決に向けたイノベーション創出EXPO。「製造・技術・素材」「医療・ヘルスケア」「環境・エネルギー」「社会・地域課題」の4つのゾーンのテーマ別展示に加え、専門家によるセミナーやワークショップを実施しました。

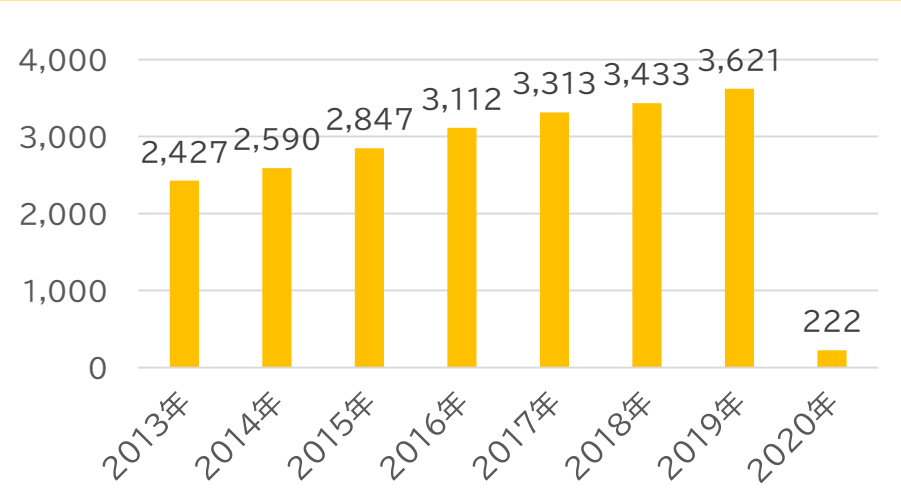
一般的にはBtoBで実施される展示会ですが、会場の立地が良く、話題性のあるワークショップには多くの市民が訪れ、展示ブースの見学もしていました。ビジネスイベントに留まらない、八王子らしいイベントとなりました。

2. 八王子市の現状と社会の動向

● MICE業界の動向

※出展 日本政府観光局(JNTO)国際会議統計

国際会議の開催件数 ※



日本国内における国際会議開催件数は増加傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、開催件数が激減しました。

令和元年(2019年)の都市別の国際会議開催件数 ※

順位	都市名	件数	参加者数
1	東京(23区)	561件	308,276人
2	神戸市	438件	158,094人
3	京都市	383件	190,834人
4	福岡市	313件	119,340人
5	横浜市	277件	303,767人
八王子市		10件	1,773人

国際会議の開催は上記5都市のほか、名古屋市、大阪市、北九州市、仙台市、札幌市などが上位を占めています。

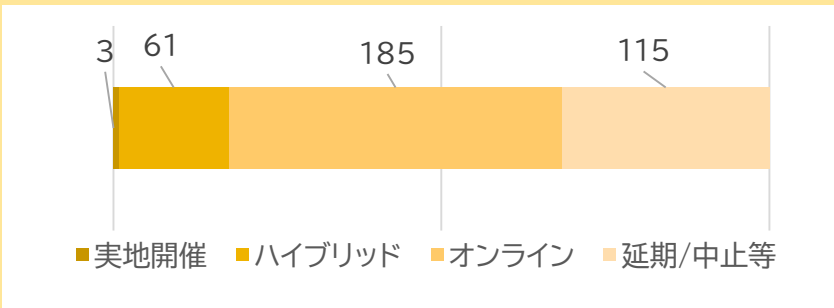
令和元年(2019年)の分野別国際会議開催件数・構成比 ※

分野	件数	構成比
政治・経済・法律	435件	12.0%
科学・技術・自然	1,507件	41.6%
医学	631件	17.4%
産業	163件	4.5%
芸術・文化・教育	481件	13.3%
社会	210件	5.8%
その他 *	194件	5.4%
計	3,621件	100%

国際会議の構成比は、「科学・技術・自然」が約4割、「医学」が約2割であり、この2分野が半数以上を占めています。

*その他は「運輸・観光、社交・親善、宗教、スポーツ、その他」

令和3年(2021年)に開催が予定されていた国際会議の件数と開催状況 (観光庁)



令和3年(2021年)の国際会議開催形態をみると、約半数はオンライン開催となっており、実地開催をしたのはわずか3件となっています。

3. これまでの活動の振り返り

	これまでの活動	主な支援実績
平成26年度 (2014年度)	○ 八王子商工会議所内に「八王子MICE都市推進センター」準備室を設置 ○ 「八王子MICE都市推進センター 活動計画基本構想」を策定	
平成27年度 (2015年度)	○ 「八王子MICE都市推進センター 活動計画実施計画」を策定	【凡例】 M：企業等主催の会議やセミナー(Meeting) I：企業等の行う報奨・研修・招待旅行(IncentiveTravel) C：学会や各種団体等が行う会議や総会(Convention) Ex：展示会・見本市(Exhibition) Ev：イベント(Event)
平成28年度 (2016年度)	○ コンベンションビューロー設置に向け、関係各団体と協議	
平成29年度 (2017年度)	○ 八王子が「多摩ビジネスイベント重点支援エリア」に指定される ○ (公社)八王子観光コンベンション協会設立、同協会内にMICE委員会設置 ○ MICE主催者への助成金開始	
平成30年度 (2018年度)	○ 誘致活動の基礎資料とするため、大学や宿泊施設に対して調査を実施	I - 外国人ファムトリップ受入れ C - 経営行動研究学会 C - 第16回 日本・モンゴル国際シンポジウム C - IEC TC101 Electrostatic国際会議 C - 第60回 日本脂質生化学会 Ev - IFSCボルダリングワールドカップ八王子2018
令和元年度 (2019年度)	○ (公社)八王子観光コンベンション協会に事業者ネットワーク設置	C - ダ・ヴィンチ没後500年記念シンポジウム C - 日本小児神経学会関東地方会 C - 日本美容福祉学会第19回学術集会
令和2年度 (2020年度)	○ PRツールの作成(動画等) ○ エクスカーション試行ツアー実施	Ev - 剣道八段審査会 Ev - 第1回東京グレートレース250km Ev - 剣道六段審査会
令和3年度 (2021年度)	○ 市にMICE推進担当課長設置 ○ 市民向けオンラインセミナー開催	Ev - 第2回東京グレートレース250km Ev - 第19回ブラインドサッカー日本選手権決勝大会 Ev - 第31回東アジアホープス卓球大会日本代表選考会
令和4年度 (2022年度)	○ 市にMICEプランナー設置 ○ MICE主催者への助成金を大幅に増額 ○ ユニークベニュー施設の発掘	C - 日本トラウマティックストレス学会 I - 第27回真空ウォーキングコース(実務講習会) C - 第63回ガラス及びフォトニクス材料討論会
まとめ	● 学会等誘致・開催に向けた大学等への働きかけを継続的に実施(誘致活動) ● 八王子でMICEを受け入れるための環境の整備(開催助成金や事業者ネットワーク) ● 地域が一体となってMICEを受け入れるための機運の醸成	

3. これまでの活動の振り返り

● 八王子における開催支援の状況 ※八王子市内で開催されたMICEのうち、八王子観光コンベンション協会が支援した件数

開催支援件数

年度	H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)
M	4件		
I			
C	2件	16件	8件
E	5件	14件	6件
計	11件	30件	14件

C(Convention/学会等)が中心となっており、学園都市である八王子エリアの特徴と一致します。

左表のうち、Cの分野別開催状況

年度	H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)
政治・経済・法律	2件	2件	
科学・技術・自然		5件	2件
医学		4件	3件
産業			
芸術・文化・教育		3件	2件
社会		1件	
その他			

国際会議の傾向と同じく、八王子エリアの学会等の分野も「科学・技術・自然」「医療」が中心となっています。

● 意見交換・ヒアリングなど

本プラン策定にあたり、(公社)八王子観光コンベンション協会や八王子商工会議所をはじめとする関係団体、MICEに関連する事業者等に意見交換やヒアリングを行い、以下のようなご意見をいただきました。

MICE都市としての
プロモーションが大事

ALL八王子で地域一丸となって
推進してほしい

八王子の魅力を再発掘

開催助成金は大きなメリット

事業者ネットワークの充実と
活用促進

SDGsへの取組は誘致の要

懇親会やエクスカッションは
機会がなくなってしまった

国際大会やインバウンドへ
積極的に取り組もう



近隣自治体をはじめとして、
広域的な連携が必要では？

地域とMICEの連携を進めたい

誘致活動は地道に継続的にコツコツと

Familiarization Trip(ファムトリップ)

MICE誘致促進のために行うMICE主催者や旅行関係者、メディア関係者等を対象とした MICE開催を想定した施設や会場の視察ツアーを「ファムトリップ」といいます。直接現地を訪れることでしか得られない体験があります。単なる会場視察だけでなく、まちとふれあいながら八王子の歴史、文化、自然などの魅力を発信します。

(公財)東京観光財団主催 ファムトリップ(令和4年(2022年)10月27日)

海外のミーティングプランナー等約10名が八王子を訪れ、高尾山をはじめとする八王子の自然や歴史を体験しました。

●主な行程●

高尾山薬王院・昼食(精進料理)→宿泊施設・ユニークバニユー施設見学(タカオネ、TAKAO BASE CAMP、東京八王子蒸留所)→夕食(うかい鳥山)

●感想など●

- ・高尾山は東京の郊外で自然を楽しみたい人にとってセールスポイントとなると思いました。
- ・都心に住み慣れている人にとっては、山に訪れ新鮮な空気を感じるのはい経験だと思いました。
- ・高尾山に訪れてタカオネでキャンプファイヤーの前に座ってコーヒー・紅茶休憩をするのは素晴らしい。
- ・うかい鳥山での夕食は、プログラムの中でこれまでで一番素晴らしい体験であった。会場は世界で最も特別な場所の一つだ。



高尾山



カフェブレイク



ユニークバニユー視察



夕食会場

3. これまでの活動の振り返り

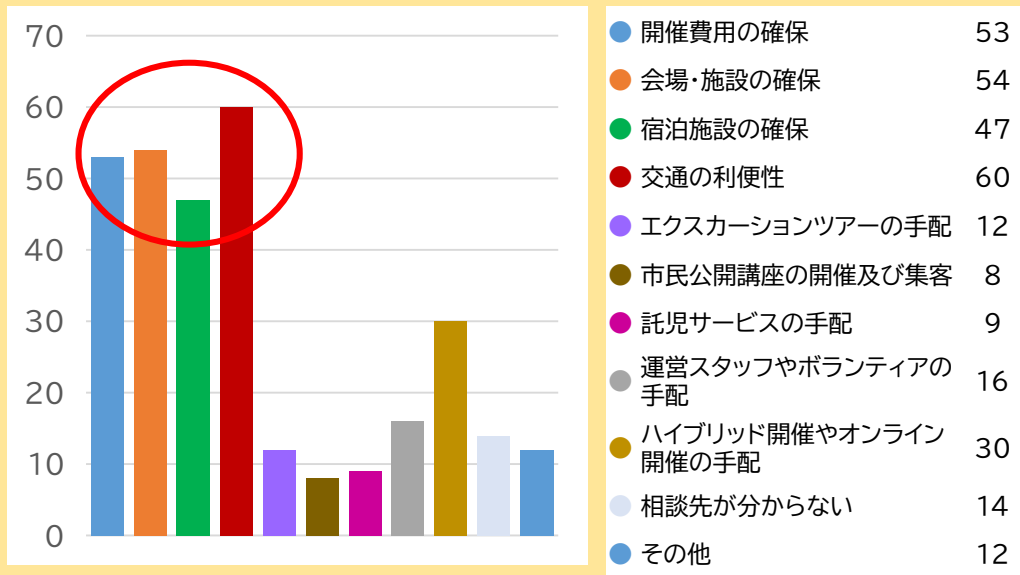
● 学会・シンポジウム等開催に関する実態調査

本市のMICEの主軸となるであろう学会・シンポジウム等について実態調査を行いました。また、回答していただいた方へヒアリングを実施しました。

【概要】

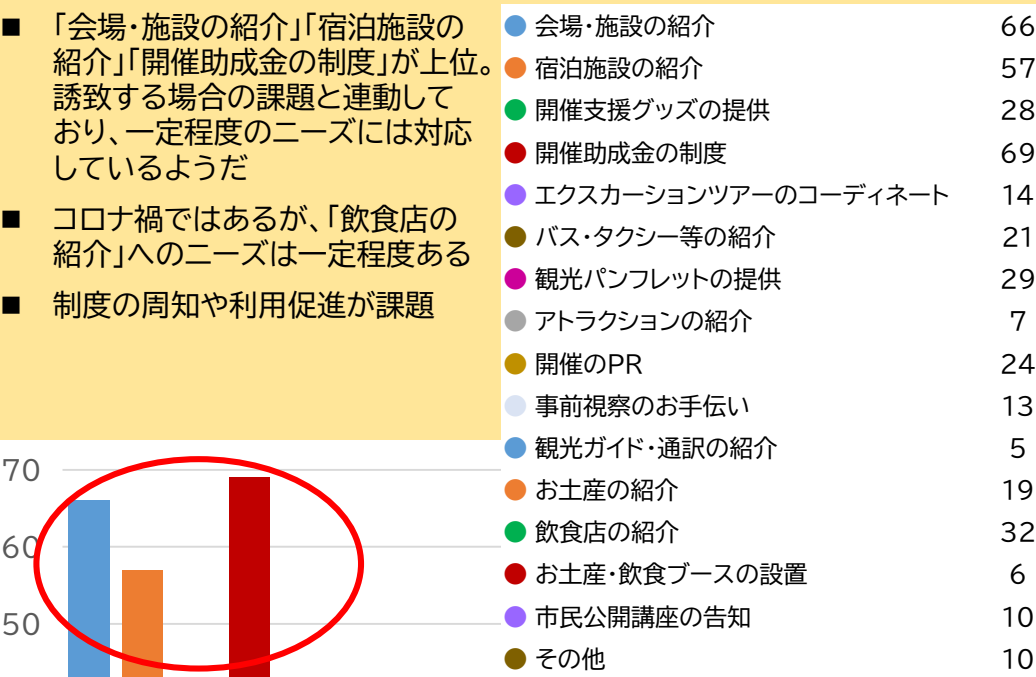
対象：大学コンソーシアム八王子加盟大学等に関わる方
期間：令和4年(2022年)7月～10月
実施方法：原則オンラインによる回答
回答数：115件

Q 学会・シンポジウム等を八王子に誘致する場合の課題はありますか？



- 「開催費用の確保」「会場・施設の確保」「宿泊施設の確保」「交通の利便性」が上位
- 2～3年前に会場や宿泊施設を確保する必要があり、調整が難しい。

Q 学会・シンポジウム等を八王子で開催する場合、八王子観光コンベンション協会の支援内容のうち、利用してみたい内容がありますか？



- 「会場・施設の紹介」「宿泊施設の紹介」「開催助成金の制度」が上位。誘致する場合の課題と連動しており、一定程度のニーズには対応しているようだ
- コロナ禍ではあるが、「飲食店の紹介」へのニーズは一定程度ある
- 制度の周知や利用促進が課題

4. 取り組むべき課題

八王子市の現状や社会動向、これまでの振り返りを踏まえ、次の4点を八王子のMICE推進における課題として設定します。

① 都市間競争の激化

- 国内外で誘致競争が激化しており、都内においてもMICEに積極的に取り組む地域が9つあります。都市間競争を勝ち抜くためには、MICE誘致に向けた戦略的なマーケティングやプロモーションが必要です。また、効果的な誘致活動のためにはターゲットを明確にする必要があります。
- 八王子には豊富な地域資源があり、MICE誘致において強みとなる環境があります。歴史的建造物や文化施設などの中にはMICE開催会場として利用できるものもあります。こうした地域資源を磨き上げ、強みを活かしたターゲットの設定やそれに向けたプロモーション活動を強化する必要があります。
- 海外に対しては、八王子エリア単独でのプロモーションよりも、より知名度の高いTOKYOエリア一体となったプロモーションの方が効果的です。

② 多様なMICE主催者ニーズへの対応

- これまMICEは実地開催をしていましたが、コロナ禍を経てオンライン開催・ハイブリッド開催が広まることで、開催形式が多様化しました。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大によりエクスカーションや懇親会の実施を控える傾向があります。しかし、MICE参加者同士の懇親を深める場、ビジネスチャンスをつかむ場としてニーズはあり、安心して実施できるプログラムの提供が求められます。
- 学会等は分野によって開催資金の調達が難しく、MICE開催助成金への期待が大きくなっています。
- 大規模MICEが開催される場合は、他都市との連携が求められます。

③ 新たな社会課題

- 感染症対策や混雑対策をはじめとする安全・安心な開催環境の提供やSDGsへの貢献は、MICE開催地として当然取り組むものとして認知されています。他都市との誘致競争においても、取組をPRすることで八王子のプレゼンス向上につながります。
- ハイブリッド開催などMICE開催におけるDXの導入支援が求められています。また、ビッグデータ活用による事例分析などにDXを導入することで、マーケティング戦略の効率化が期待されます。
- リニア中央新幹線の開業や大規模国際イベントの国内開催など、東京や八王子への人流の変化が見込まれています。

④ 地域との連携

- MICEの誘致・開催支援には地域の力が必須です。大学関係者や地域事業者のMICEへの積極的な参加を促し、ALL八王子でMICEに参画する環境整備が必要です。
- 地域の住民がMICEを身近に感じ、またMICE主催者も地域へ入ることにより、地域全体でMICEを盛り上げていく機運の醸成が地域の活性化につながります。

5. 基本的な考え方と目指す姿

● 目標と目指す姿

このプランは、「八王子市産業イノベーションプラン」の「【施策の柱1】成長産業の創出～オープンイノベーションによる高付加価値の産業構造への転換～」 「【施策の柱4】地域資源活用で稼ぐ力の強化～ブラッシュアップとインキュベーションで「稼ぐ街」へ！～」の実現を目指す、令和12年度(2030年度)までの八王子におけるMICE推進の活動指針です。都市間競争の激化、多様なMICE主催者のニーズ、新たな社会課題、地域と連携しMICEの効果を地域全体に波及といった課題に対し、八王子の地域資源・魅力(MICE施設、日本遺産・観光資源、産業の集積、学園都市、交通・宿泊、豊かな自然、ユニークベニュー)を磨き上げ、最大限活用し、選ばれるMICE都市になることを目指し、本プランでは以下のとおり目標と目指す姿を設定します。

目標 MICE都市八王子の確立

- MICE業界における八王子エリアの認知度はまだ低く、国際会議開催件数は主要MICE都市に及びません。まずは開催候補地としての認知度向上を図ります。
- MICE都市としての八王子のブランドが、MICE業界だけでなく地域にも受け入れられるよう取組を進めます。
- 関係団体等が主体的に関わり、“ALL八王子”でMICE推進事業に取り組み、豊かな地域資源を活かしながら前章の課題解決を図る体制を構築します。

目指す姿① 「MICE都市としてのブランドが確立し、地域に根付いているまち」

- MICE都市として八王子のブランドが、MICE業界だけでなく地域にも受け入れられ、持続的に事業を展開できるよう取り組みます。
- まちの魅力を磨き上げ、MICEを通じ、八王子エリア全体で「稼ぐ街」へとイノベーションを遂げることを目指します。

目指す姿② 「市内全域に経済効果が生まれ、活力あるまち」

- 主催者のニーズを的確に捉え、八王子の魅力を活かしながら、MICE開催の効果が最大限地域に還元されるよう取り組みます。
- 地域の事業者が主体的にMICEに参画し、ビジネスチャンスの拡充を促進します。

目指す姿③ 「イノベーションの機会が創出されているまち」

- 多くの交流が生まれると、人的ネットワークの形成や知識・情報の交換に大きな効果をもたらすことが期待されます。それらを通じて、新たなビジネスチャンスや科学技術の発展、そしてイノベーションの創出への道が拓かれます。MICEの開催により、その機会を創出します。

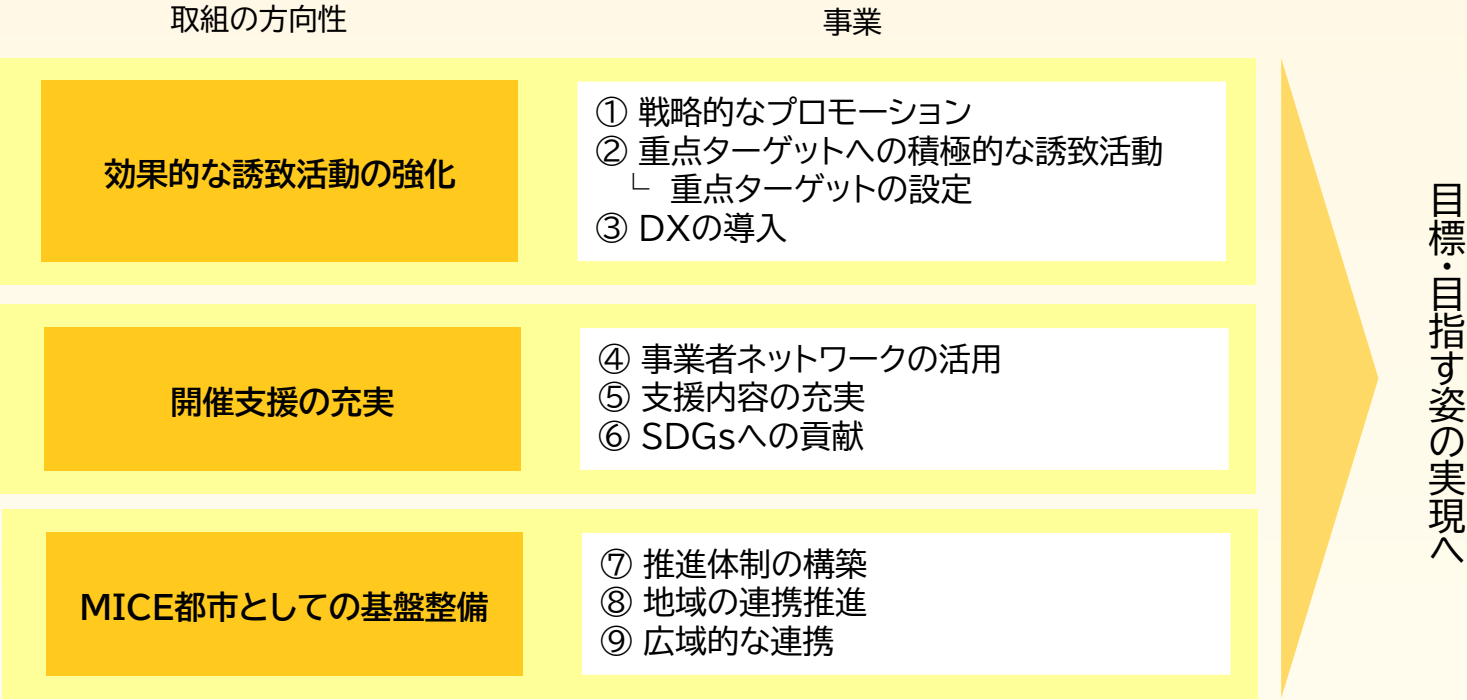
5. 基本的な考え方と目指す姿

● 計画の体系

「八王子市の取り組むべき課題」の解決を図り、上記目標と目指す姿を実現するため、「誘致活動の強化」「開催支援の充実」「MICE都市としての基盤整備」の3つを取組の方向性とし事業を展開します。また「誘致活動の強化」においては誘致にあたっての重点ターゲットを設定し、効果的な事業展開を目指します。
事業の推進に当たっては、（公社）八王子観光コンベンション協会のMICE戦略のコンセプト「グローバルMICE都市八王子の実現」と連携します。

【重点ターゲットの設定】

八王子の地域資源や強みを活かしながら、より効果的にMICE誘致活動を行うため、重点的に誘致活動を行うターゲットを設定します。



4 seasons



(イメージ)

<目標>

MICE都市八王子の確立

令和5～12年度
(2023～2030年度)

MICE開催地として選ばれ、MICEの効果が市
域全体に広がることを目指す。

<目指す姿>

MICE都市としての
ブランドが確立し、
地域に根付いているまち



イノベーションの機会が
創出されているまち



市内全域に経済効果が生まれ、
活力あるまち

<取組の方向性>

MICEの開催

(1)効果的な誘致活動
ブランディング力の強化



交流の場

(2)開催支援
地域や事業者の活躍機会の創出



(3)MICE都市としての基盤整備

周辺都市との連携

推進体制の確立

地域との連携

6. 取組の方向性と各事業 — (1)効果的な誘致活動の強化 / 重点ターゲットの設定

【現状と課題】

- 都市間競争を勝ち抜くためには、八王子の魅力を最大限に活かし、戦略的なプロモーション活動を行う必要があります。
- 誘致活動を効率化するため、ターゲットを明確化し事業効果を高める必要があります。
- DXの導入によるMICE事業の効率化が求められます。

【必要な取組】

- 八王子のMICE都市としてのブランドイメージを磨き上げ、戦略的なプロモーション活動を行います。
- MICE誘致の重点ターゲットを設定し、効果的な誘致活動を目指します。
- ビッグデータ活用による事例分析などマーケティング戦略へDXを導入します。

【取組の方向性】(1) 効果的な誘致活動の強化

① 戦略的なプロモーション

② 重点ターゲットへの積極的な誘致活動

重点ターゲットの設定

③ DXの導入

重点ターゲットの設定

八王子の魅力や強み、まちの規模を活かすため、中小規模のMICEに重点を置きます。

Target 1
Convention／学会
(工学系・医療系)

- 国内で開催される学会のうち、科学・技術・自然が最多の約42%、次いで医学が約17%(2019年度)であり、この2分野が学会等の中心となっています。
- 八王子は全国有数の学園都市です。大学コンソーシアム八王子には25の大学等が加盟しており、工学系の学部が集積しています。また、市内には医療機関も多く所在しています。主催者にとっては、参加者や会場確保等のメリットが高く大きな魅力となります。また、「学会・シンポジウム等開催に関する実態調査」で開催意向を示した方をはじめ、市内には潜在的な主催者が多数いることが見込まれます。
- 工学系・医療系学会は産学交流の促進の機会となる。また、特に成長が見込まれる分野であり、イノベーション機会の創出へつながります。

Target 2
Exhibition／展示会
(地域産業振興を目的)

- 東京たま未来メッセが開業し、展示会や見本市の開催が可能な環境が整備されました。
- 八王子を中心とした多摩地域や、埼玉県から神奈川県中央部に至る主として国道16号線沿線エリアには、大企業の研究所や先端技術を持った中小企業が集積しており、開催地としての強みと言えます。また、地元企業が展示会等へ参加することで更なる成長が見込まれます。
- 他エリアの参加者と地元参加者との交流が生まれることで、新たなビジネスやイノベーション機会が期待されます。

Target 3
Meeting・Incentive
／研修旅行(企業合宿)

- オフサイトミーティング(現場から離れた場所で行われる会議)やチームビルディング(メンバーの能力を活用し、目標を達成できるチームづくり)に適した豊かな自然環境・特色ある施設があり、新宿から最短35分でこうした環境を提供できるのは八王子エリアの大きな魅力です。
- 多くの体験プログラムや産業観光資源があり、研修旅行のプログラムを充実させることができます。

6. 取組の方向性と各事業 — (1)効果的な誘致活動の強化 / 重点ターゲットの設定

① 戦略的なプロモーション

これまで整備してきたPRツール等を活用し、主催者のニーズを的確に把握しながら、当地の魅力を戦略的に発信し、“MICE都市八王子”の確立を目指します。また、プロモーション活動の核となる八王子のMICE都市としてのブランドイメージを磨き上げ、積極的に活用します。
【主な取組】

MICE商談会等への出展

国際会議及び国内の学会・大会の開催、企業ミーティングの実施など、MICEの相談ができる商談会等に積極的に出展し、MICE都市としての魅力を効果的に発信する。

MICE都市としてのブランド戦略の確立

八王子の魅力を磨き上げ、関係者と共にブランドイメージの確立に向けて検討を行う。

ファムトリップ試行・実施

ターゲットとする分野のミーティングプランナーやMICE主催者、旅行事業者、ブロガー、メディアなどに当地を視察してもらい、MICE誘致促進につなげる。

積極的な広報活動

MICE専門誌等を通じ、ミーティングプランナーや旅行会社、MICE主催者等に対し積極的に広報活動を行う。

② 重点ターゲットへの積極的な誘致活動

重点ターゲットを設定し、MICE誘致に向けてキーパーソンに対し積極的な働きかけを行います。
【主な取組】

重点ターゲットの設定(前頁)

八王子の地域資源を活かしつつ、今後の社会的な変化も見据えながら、フェーズごとに誘致活動におけるターゲットを検討する。

MICE市場の調査・分析

重点ターゲットの業界の動向や開催支援したMICEのデータを分析することで、効率的な誘致活動・開催支援に活用する。

誘致支援

八王子開催の意義が大きい重要なMICEについては、本市に誘致しようとしている団体に対し、ビッドペーパー等の作成支援のほか、開催地決定権限のある委員への直接セールスや海外での総会等における八王子のアピールを行い、開催決定を促進する。

重点ターゲットへの営業

大学コンソーシアム八王子加盟大学・企業・医療機関等のキーパーソンを対象に、MICEの開催意向調査を実施し、最新の誘致・開催情報を収集する。
また、開催の可能性のある場合は、MICE開催に必要な情報を積極的提供し、八王子への誘致に努める。

③ DXの導入

位置情報等ビックデータを活用し、MICE推進事業の効果・検証に活用する。MICE開催におけるデジタル技術導入支援を行います。

【主な取組】

ビックデータの活用

MICE開催時の位置情報の変化等を分析し、今後の事業に活用する。

デジタル技術の活用支援

ハイブリッド開催等デジタル技術を活用した開催を支援する。

MICE商談会



国際MICEエキスポ(IME)2023
主催：一般社団法人日本コンgres・コンベンション・ビューロー(JCCB)、
日本政府観光局(JNTO)

国際/国内会議、学会・大会、企業ミーティング、インセンティブ旅行等MICEを誘致するための商談イベント。

3年ぶりの対面開催となり、八王子ブースにも多くのバイヤーが訪れました。

令和5年(2023年)2月16日東京国際フォーラム

6. 取組の方向性と各事業 — (2)開催支援の充実

【現状と課題】

- MICE開催形式が多様化し、主催者のニーズが多様化しています。
- 感染症対策によりエクスカージョンや懇親会等の開催が減少しています。
- 学会等は開催資金の調達が難しく、MICE開催助成金への期待が大きくなっています。
- MICE誘致にあたっては、SDGsへの取組が標準となっています。

【必要な取組】

- 事業者ネットワークの体制を強化し、活用を推進します。
- MICE主催者のニーズを的確に捉え、開催助成金や地域資源を有効に活用します。
- MICE都市として選ばれるためのSDGsへの取組を推進します。

【取組の方向性】

(2) 開催支援の充実

④ 事業者ネットワークの活用

⑤ 支援内容の充実

⑥ SDGsへの貢献

SDGs × MICE



70年にわたり八王子で酪農を営んでいる磯沼ミルクファーム。
1000坪の放牧場に6種類の牛や羊たちがのどかに暮らしています。

●循環型農業

食品工場から出る野菜や粕類(ビール粕やあんこ粕など)やお豆腐屋さんのおからなどをエコフィードとして給餌。また、チョコレート工場やコーヒー工場から出る豆や殻を牛床(牛の寝床)に敷いています。

本来、産業廃棄物として廃棄されるものを牛のエサや敷料として利活用することで廃棄コストやエネルギーの削減に繋がっています。

さらに、牛の糞尿を発酵させることで堆肥を作り近隣農家さんが活用しています。

●乳搾り体験教室

「見て」「体験して」「味わい」ながら、食のルーツを体験する教室です。都市の中のオープンファームとして、“牛と人のしあわせな牧場”“街の中のおいしい楽しい牧場”となっています。

●TOKYO FARM VILLAGE

こうした豊かな場所を地域の事業者とともに共有するプロジェクト。酪農家ならではの美味しい乳製品や、ファームの恵みを活かしたカフェ、マルシェやワークショップができるフィールドです。

6. 取組の方向性と各事業 — (2)開催支援の充実

④ 事業者ネットワークの活用

地域全体でMICE開催を盛り上げるため、市内事業者等をネットワーク化し、MICE主催者のニーズに対応できる体制構築を支援します。
【主な取組】

会員増加

MICE開催支援の中核である事業者ネットワークの会員増加を図り、地域全体でMICE開催を盛り上げる。

連携強化

多様な主催者ニーズに対応できるよう、会員同士の連携を強化する。

事業者ネットワークの活用

MICE主催者に対し事業者ネットワークの活用を促し、地域事業者の活躍の場の創出を図る。

機能強化

事業者ネットワーク会員へ必要な情報を提供するとともに、主催者のニーズに応える体制を強化する。

⑥ SDGsへの貢献

八王子のSDGsへの取組を効果的にPRし、MICE開催地としてのプレゼンス向上を図る。また、主催者に対しても、積極的な取組を促します。
【主な取組】

SDGsに関する取組のPR

市や地域のSDGs達成への取組を効果的に発信することで、MICE都市としての魅力向上につなげる。

事業者への啓発

MICEに関わる事業者に対し、SDGsに貢献する取組を促し、MICE都市としての魅力向上につなげる。

主催者への啓発

MICE開催時のSDGs取り組み事例を紹介するなど、MICE主催者に対し、MICE開催時におけるSDGsへの貢献を促す。

⑤ 支援内容の充実

主催者のニーズに対応できるよう、様々な地域資源を有効に活用し、主催者及び参加者の満足度を高め、MICEのリピート開催や参加者の満足度を高め、八王子への再訪意欲を喚起するため、一定の要件を満たすMICEに対し、支援を行います。
【主な取組】

地域資源の有効活用

MICE開催会場、宿泊施設、交通手段、エクスカーション、ユニークベニュー、おみやげなど、MICE開催に必要な情報を主催者に提供し、八王子の魅力を積極的に活用する。また、新たな資源・魅力の発掘をめざす。

支援体制の構築

学会・シンポジウムや展示会、スポーツ大会など、引き続き関連する所管や関係団体等と連携し支援を行う。

ユニークベニューの活用

ユニークベニューとして利用できる施設を発掘し、登録施設を充実させ、MICE都市としての魅力向上に努める。また、ユニークベニューの利用促進及び利用実績のPRを行う。

プレ・ポストMICEの推進

本市の魅力ある資源を活用したレセプションやエクスカーション等プレ・ポストMICEを推進し、市内回遊性の向上を図る。

開催助成金の利用促進

MICE開催に必要な助成金を交付。また、ハイブリッド開催、おもてなし、借り上げ車両など、様々なニーズに対応するオプションメニューの利用を促進する。

6. 取組の方向性と各事業 — (3)MICE都市としての基盤整備

【現状と課題】

- 地域事業者がALL八王子でMICEに参画する環境整備が必要です。
- 地域の住民がMICEを身近に感じ、またMICE主催者も地域へ入ることにより、地域全体でMICEを盛り上げていく機運の醸成が求められます。
- 大規模MICEが開催される場合は、他都市との連携が求められます。

【必要な取組】

- ALL八王子でMICEを推進する体制を確立します。
- 地域全体でMICEを盛り上げていく機運の醸成を図ります。
- 他のMICE都市との広域的な連携を図ります。

【取組の方向性】

(3) MICE都市としての基盤整備

⑦ 推進体制の確立

⑧ 地域の連携推進

⑨ 広域的な連携

Event

●IFSCボルダリングワールドカップ等 (IFSC Bouldering Worldcup)

主催 国際スポーツクライミング連盟(IFSC)、
(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)

平成29年(2017年)、東京2020オリンピックの追加競技決定後、国内初となるスポーツクライミングワールドカップ「IFSC ボルダリングワールドカップ八王子 2017」がエスフォルタアリーナ八王子で開催されました。

以降、継続して八王子で開催され、地域全体で盛り上がるイベントとなっています。令和5年(2023年)の「IFSCボルダリングワールドカップ八王子2023(仮称)」の開催も決定しており、国内外から多くの出場者・来場者が見込まれます。

大会	日程	出場選手数	来場者数
IFSCボルダリングワールドカップ八王子2017	2017年 5月6～7日	138名	4,257名
IFSCボルダリングワールドカップ八王子2018	2018年 6月2～3日	159名	5,271名
IFSCクライミング世界選手権2019八王子	2019年 8月11～21日	延606名	12,537名
IFSCボルダリングワールドカップ八王子2023 (仮称)	2023年 4月21～23日	—	—



6. 取組の方向性と各事業 — (3)MICE都市としての基盤整備

⑦ 推進体制の確立

八王子エリアがMICE都市として確立することを目指し、(公社)八王子観光コンベンション協会を中心に関係所管や地域の事業者等と連携し、MICE事業を推進します。
【主な取組】

専門性の向上
専門的な知識を持った人材の活用や、MICE誘致・開催支援を担う人材を育成し、MICE推進を図る。

安全・安心な環境整備
主催者に対し、参加者や来場者、そして地域にとって安全・安心なMICE開催を促す。

事業者への啓発
今後MICE開催件数が増加することが見込まれるため、様々なMICEにおいて意欲的に活躍を目指す事業者への支援を行う。

⑧ 地域の連携推進

地域の住民がMICEを身近に感じ、またMICE主催者も地域へ入ることにより、地域全体でMICEを盛り上げていく機運の醸成を図ります。
【主な取組】

MICEと地域の連携促進
MICE主催者に対し、地域住民等がMICEを身近に感じる機会の提供を促す。

大学等との連携
八王子地域学生生活動連絡会と連携し、学生がMICEに参画する機会を提供することで、学生のMICEに対する理解を深める。

情報提供
市や観光コンベンション協会が行うMICE推進の取組について、市民に対し広く周知する。

レガシー効果
MICE開催が地域にもたらすレガシーについて、積極的にPRする。

⑨ 広域的な連携

大規模なMICEが東京で開催される場合や日本各地を巡る国際MICEが開催される場合等は、各地と連携し、八王子への誘致を目指します。
【主な取組】

他の重点エリア
東京都が選定した東京ビジネスイベント先進エリア及び多摩ビジネスイベント重点支援エリアと連携体制を充実させ、MICE誘致や開催支援につなげる。

MICE都市との連携
各地のコンベンションビューローが集まる団体等へ参加し、情報交換を行うなど、国内各地のMICE都市と連携を図る。

MICE商談会等への共同出展
TOKYOエリア一体となったPRを行うことで、世界に対しMICE都市八王子のPRを行う。

「そめる」プロジェクト

八王子市と東京都立大学 システムデザイン学部 インダストリアルアート学科 ヴィジュアル・コミュニケーション・デザインスタジオとの官学連携で取組まれた、訪問者を歓迎するフラッグやサインのデザイン。「そめる」には、織物のまち八王子の伝統や文化を受け継いだ染物の「染める」と、新しくスタートする「初める」の意が込められた。変化を続ける八王子のまちの未来に希望を馳せて、未広がりや無限大を意味する「八」をモチーフとした。
(令和4年(2022年)9月から令和5年(2023年)9月まで八王子駅北口周辺で掲出)

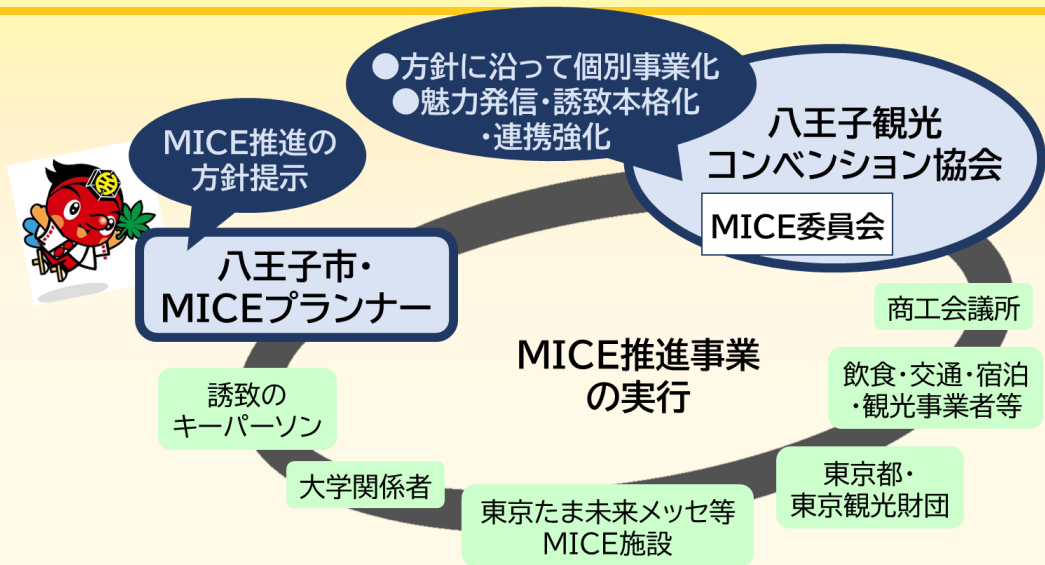


7. 推進の体制とステップ

本プランの推進にあたっては、(公社)八王子観光コンベンション協会を中核としながら、東京都、(公財)東京観光財団、八王子商工会議所をはじめとする地域団体等と相互に連携します。

実行にあたっては、その効果や達成度を把握することにより次のステップへつなげていくことが大切です。プランの達成度を見るひとつの指標としてKPIを設定し、取組の進行状況を把握します。(公社)八王子観光コンベンション協会や関係団体等と意見交換を行い本プランの推進につなげます。

また、本プランでは8年間の計画期間を前半と後半に分け、段階的に取組を推進します。中間年には見直しを行い、事業実施による成果を把握し、次のステップへ反映させます。



	期間:R5~R12(2023~2030)の8年間		
	~R4 (~2022)	R5~8 (2023~2026)	R9~12 (2027~2030)
フェーズ	準備期	充実期	発展期
展開		- MICE商談会への積極的な参加等、誘致活動の本格化 - 事業者ネットワークの拡充 - ブランド力の強化	- キーパーソンの更なる発掘 - MICE都市としての認知度向上 「稼ぐまち」への展開
KPI(各年)	R3年度実績	R8	R12
経済波及効果	1930万円	11億円	14億円
開催支援件数	3件	52件	60件
主催者満足度	新規	70%	80%

MICEプロモーションプラン

令和5年(2023年)3月
発行:八王子市産業振興部観光課